

大規模化に対応した柿産地づくり

要約

奈良県は全国第2位の柿の栽培面積、生産量を誇っている。県内の栽培面積の約90%を占める五條市では、中心となる担い手の経営は大規模化しており、主要品種である「刀根早生」の割合が高い経営においては、とくに収穫作業の平準化が必要である。

そこで、作業労力の分散を図るため、「刀根早生」の一部を優良早生系統「上平早生（通称）」へ転換することを推進した。

また、地球温暖化等の気候変動により発生状況が変化している炭そ病やカイガラムシ類の防除指導を徹底することにより、被害が低減し品質が向上した。

現状(背景)と課題

- ・大規模経営ではとくに10月上旬の収穫作業が集中
- ・老木化による生産量や品質の低下
- ・地球温暖化等の気候変動により、主要病害虫の発生の早期化・長期間化

目標

- ・優良早生系統「上平早生（通称）」の導入面積 37.0ha
- ・「富有」の老木園の面積 40.0ha
- ・選果場の秀品率
刀根早生 55%、富有 60%

活動内容

- ・講習会において、転換によるメリットである収穫作業ピークの分散、収益性の向上等を提示した資料ならびに未収益期間を短縮できる大苗を利用した改植による早期成園化の技術を紹介して啓発。また、部会の若手生産者等を対象に研修会を実施。
- ・炭そ病の発生生態の説明やフジコナカイガラムシの積算温度による発生予測シミュレーションを活用し、防除時期の適時の情報提供や講習会で防除指導を実施。

成果

- ・「上平早生（通称）」については、講習会・研修会での啓発により導入が進んだ。
- ・炭そ病については、予防効果の高い薬剤による体系防除や耕種的防除（伝染源となる発病枝や発病果実の除去）の徹底を指導することにより被害が低減した。
- ・カイガラムシ類については、初期（越冬場所から新梢へ移動する春先）の薬剤防除の徹底や防除適期（薬剤感受性の高い幼虫のふ化時期）を適時に情報提供することにより被害が低減した。



西吉野柿部会せん定講習会での啓発



五條市柿部会出荷目揃え会での啓発

南部農業振興事務所農業振興課
担当：農産物ブランド推進係
(リーディング品目支援事業、果樹経営支援対策事業)

普及活動のポイント

- ・「刀根早生」の一部を「上平早生（通称）」に転換した場合の労力分散や収益向上を提示。
- ・老木園の更新に伴い発生する未収益期間を短縮できる技術を紹介。
- ・病害虫の発生生態の説明や耕種的防除を指導。

対象の変化

- ・「上平早生（通称）」への転換により、早期出荷、収穫作業の分散や収益性が向上した。
- ・若い経営者や後継者のいる経営体は適正な品種・樹齢構成が将来の経営の安定化のために重要であることを再認識した。
- ・病害虫の発生生態を理解することにより、的確に効果的な防除を行うことができた。

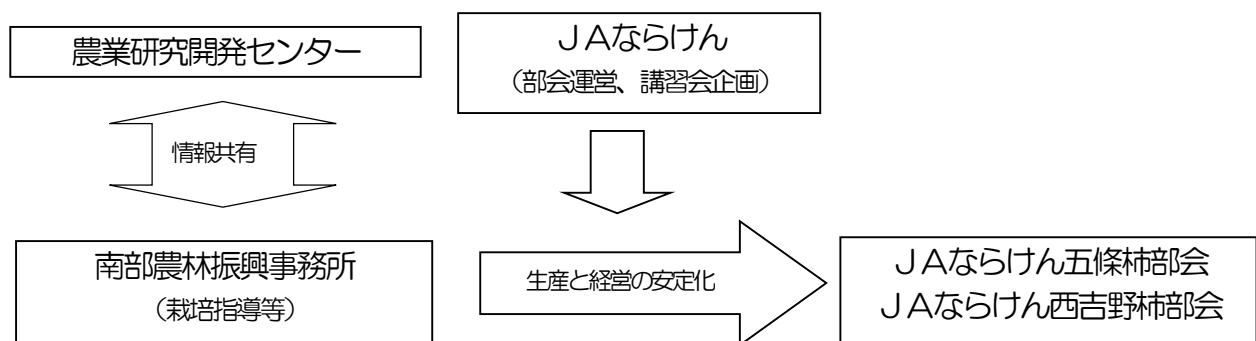
対象者からのコメント

- ・産地では経営の大規模化による作業の平準化、品種・樹齢構成の適正化は重要な課題であり引き続き支援をお願いしたい（JAならけん五條柿部会、西吉野柿部会）
- ・高品質果実の安定生産のための技術指導を連携してお願いしたい（JAならけん）

これからの活動ビジョン

- ・収穫作業の平準化や収益性向上のため、優良早生系統への転換誘導を継続して進める。
- ・老木化による生産性の低下を解消するため、リスク提案を強化するなど「富有」の計画的な改植の啓発を強化して進める。

活動体制



用語解説

「上平早生（通称）」

奈良県の主要品種である「刀根早生」の枝変わりとされ、概ね9月中に収穫できる優良早生品種。五條市西吉野町内の柿園地で発見された。